

ヒガラ



3月下旬ともなれば北国札幌でも日差しはすっかり春なのです。三角山リンゴ園の残雪はまだ1メートルちかくもあります。年が明けて初めてのリンゴ園作業の日。早めに現場に行きました。バードテーブルに集まる鳥達を見たかったのです。いれかわり、たちかわりカラ類が訪れますが、バードテーブルではゆっくりしてはくれません。ほとんどの鳥たちは餌をすばやく掠め取る感じで啜って飛び去ります。カメラを構えてシャッターチャンスを狙うのですが、なかなかうまくはいきません。三人五人とメンバーが集まり始めましたので、テーブルを離れました。傍らのクロマツの植木の下でヒガラが雪の上で何かをついばんでおりました。マツの葉から虫でも落ちてくるのでしょうか、盛んに雪に顔をつっこんだりしておりました。

ヒガラはシジュウガラに装いは似ています。弟分のような感じでちょっと見には区別が困難です。シジュウガラより気持ち小さめで、頭の形がちょっと違う程度なのです。しばしば混群しますので、ますます分かりにくくなります。

リンゴ園初日の参加者は15名。活動日を待ちかねていた様子が嬉しかぎりでした。リンゴの木の剪定枝を切り刻んで園内に撒き早く腐らせて土に還す仕事なのです。銚みや鉋できざみですが、今年は昨年装備した移動式のチップーを使うことになりました。



2日目、チップーの出番です。キャタピラ式なので雪の上をゆっくり歩きます。最初の処理現場に到着しました。いよいよチップーを起動させようとするのですが、食い込み口が順回転しません。あれこれいじりまわしてもラチがあきませんので、販売店にヘルプをお願いしました。原因はフルスロットルをしなければ油圧があがらず回転しないとのことだったのでした。びくびくスロットルを調整していたわけで、わかってみればナーンダということでした。

チップーの威力は絶大でした。リンゴの生枝ですから柔らかいこともあって、ガバガバ呑み込みましてバリバリ粉碎します。ざっと見に3日もあれば片付くと思われました。

「こんなところで役に立つとは思わなかったなー」と誰かがいいましたが、誰もが思ったことでした。